

『ふじさん言葉を合い言葉としたあたたかな関わり』

藤枝市立青島北小学校

1 平成30年度 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	ピア・サポート = 三方良しの思いやり		
	<p><u>一年生を迎える会</u></p> <p><u>ペア出会いの会</u> (学年の実態に応じたペア集会等を実施する、自己紹介カードを渡すなど)</p> <p><u>ピア・サポート集会 (年3回)</u> ピア・サポート委員会が中心となり、全校児童の意識を高める。寸劇、ゲーム等を通して、より良いピア・サポートの姿を学ぶ。</p>	<p>【ふじさんことば】 年間を通して継続していく。 ・やさしさいっぱい あたたかく聴き、やさしく話す。(4～5月) ・げんきいっぱい こだわりをもって考え、進んで表現する。(5～8月) ・おはなしいっぱい 意見をつなげ、語り合い、相談する。(9～12月) ・ありがとういっぱい 互いの良さを、認め合う。 (1～3月)</p>	<p><u>職員会議での研修</u> (本校のピア・サポートを共通理解し、成長を促す生徒指導を学校全体で推進方法及び推進組織を明確化する)</p> <p><u>授業を見合う会</u> (担任が子どもと共に、同学年、ペア学年等の授業を参観し、教員間、子ども間の研修の共通意識を持つ。)</p>
5月	<p><u>ロングサクランボタイム</u> ペアとの出会いのきっかけを作るために、年度の初めにペアの友達と公園に行き、お弁当を食べたり遊んだりする時間を設ける。</p>	<p><u>特別支援学級との交流(通年)</u> 「そら」「にじ」学級の児童と自然に触れ合うことができる場面を設ける。(行事、授業、休み時間など)</p>	<p><u>随時</u> 学年・学級の実態に応じたピア・サポートのスキルトレーニングの紹介。実践等の情報交換。</p>
6月	<p><u>第35回友垣運動会</u></p>	<p><u>北中生との連携</u> ・読み聞かせ (学期に1度、北中の生徒が来て読み聞かせをする。) ・あいさつ運動 (小学生、中学生がそれぞれの学校に出向き、あいさつをする。)</p>	<p><u>子どもを語る会</u> (教職員間で気になる子どもの共通理解を図り、子どもの特性や、対応の仕方について情報交換する。)</p>
7月	<p><u>サクランボタイム</u></p>		
8月	<p>ペアとの交流を深めるために、定期的に年10回程度実施する。また、ロング昼休みにペアで遊ぶ時間を設ける。</p>		
9月	<p><u>第35回友垣音楽会</u></p>		
10月	<p>全校合奏「この星にうまれて」</p>		
11月	<p><u>ながなわフェスティバル</u></p>	<p><u>あいさつ運動 (通年)</u> ・児童会、PTAが正門に立ち、あいさつ運動を行う</p>	
12月	<p>学年ごとに児童会から提示された飛び方を各クラスで飛ぶ。回数ではなくクラスごと披露するという演目で実施する。</p>	<p><u>ピア・サポート掲示板</u> 各学年の掲示板に用紙を用意する。より良いピア・サポートの姿を見つけたらカードに記入して、ピア・サポートポストに投稿する。ステージごとに各学年でための掲示物を1階のピア・サポート掲示板に移し、1枚の絵をつくりあげる。</p>	<p><u>教育課程</u> 今年度の実践及び成果と課題の報告、次年度の取組の検討。</p>
1月			
2月	<p><u>ペアありがとうの会</u> 下級生から上級生にペアありがとうの会を企画</p>		
3月	<p><u>6年生ありがとうの会</u></p>		

自己有用感を感じ、自己肯定感を高めるあたたかい友垣の仲間

2 本校のピア・サポート活動の紹介

I 特別活動を中心とした全校での取組

(1) ピア・サポート委員会の活動

①ピア・サポートの花活動

【提言6・7】

本年度も、昨年度に引き続きピア・サポートの花の活動に取り組んだ。まず、各学年に模造紙を配り、その紙にピア・サポートの花を貼っていくようにした。ピア・サポートの花とポストを各学年に設置し、友だちの良いところを見つけたらすぐに紙に書き、ポストに投稿できるようにした。学期に一度各学年の模造紙を集め、貼り合わせると1つの絵が完成するようになっている。1学期は「木」を、2学期は「校章」の絵をつくりあげることができた。この活動に積極的に取り組めるように、委員会の児童には定期的にピア・サポート便りの発行や、昼の放送を活用してポストに投稿された良い表れを全校で紹介した。

②ピア・サポート集会

【提言3・5・6・7】

4月

年間を通してピア・サポート活動に取り組むために、4月にピア・サポート集会を開き「ピア・サポートとは何か」、「生活・授業の中でのピア・サポートの例」「本年度のピア・サポート活動」を紹介した。大型の掲示や児童の寸劇を取り入れた集会にすることで全職員・児童のピア・サポートに対する意識を高めることができた。

9月

「やさしさ・げんきいっぱいステージ」では、低学年を中心に多くのピア・サポートの花が集まったが、各学年でばらつきがあり、絵が完成しないという課題が残った。そこで、9月に再度ピア・サポート集会を開き、「活動の振り返り」「ピア・サポートの花にはどんなことを書いたらいいのか」「おはなしいっぱいステージのめあて」を寸劇を入れて紹介した。

1月

「おはなしいっぱいステージ」では、前回と比べものにならないほど多くの花が集まった。また、花に書く内容も前回よりもレベルアップしたものが多くあった。しかし、「自分

「相手」を意識したピア・サポートは多く見られたが、「みんな」を意識したピア・サポートが少ないという課題が残った。そのため、1月のピア・サポート集会では、「活動の振り返り」「自分・相手・みんなを意識したピア・サポート」「ありがとういっぱいステージのめあて」を寸劇に取り入れて紹介した。



(2) ペア活動の実施と異学年交流

【提言1・4・6】

①ペア出合いの会

本校では、年度初めに1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアを組み、1年間活動を共にする。4月下旬には、上級生が中心となって「ペア出合いの会」を企画し活動を行った。どんな会にしたらペアが喜んでくれるか真剣に考えたことで、当日はどのペア学年も笑顔あふれる出合いの会となった。

②サクランボタイム

毎月1回木曜日のロング昼休みを「サクランボタイム」としてペア活動を行っている。また、昨年度に引き続き本年度も4月のサクランボタイムを「ロングサクランボタイム」とし、通常よりもペア活動の時間を長く設定した。ペアで近くの公園に行き、一緒に楽しくお弁当を食べた後、自由に遊ぶ時間を設けた。新しいペアになって初めてのサクランボタイムであったが、ペアと長い時間一緒に過ごすことでペアとの仲を急速に深めることができた。その後の、サクランボタイムでも、ペア学年ごとクラス単位で遊びを計画したり、個人で遊びを考えたりして活動を行った。毎回、上級生が下級生の子を教室まで迎えに来て、手を引いて外に遊びに行き、笑顔いっぱ

いで遊ぶ姿が見られた。このように、遊びを通じて異学年の子どもに対する思いやりの心を育んだ。



Ⅱ 授業における取り組み

(1) あたたかい話し方・聴き方

【提言1】

本校では、授業や日常生活の中であたたかい話し方・聴き方を大切にする指導を行っている。授業の中では、より具体的な目標を設定し、全職員・児童が目指す姿を共通認識できるように、小中9年間を見通した各学年のつきたい「話す力」「聴く力」のモデルを各学級に掲示し、それを基に年間を通して指導に取り組んだ。また、年度当初に「めざす授業像」を話し合った。その際、あたたかい話し方はどのような話し方か、あたたかい聴き方とはどのような聴き方なのか話し合うことで、授業像の中にもより具体的な姿として示された。

(2) 授業を見合う会

【提言1・4】

昨年度に引き続き、本年度も「授業を見合う会」を行った。全学級が授業を公開し、同学年や異学年の授業を見合った。同学年や上級生の児童が授業に取り組む姿勢や、話し方・聴き方、友だち同士が関わり合う姿は刺激的で真似したいところをたくさん見つけることができた。また、同学年や他学年の児童に自分たちの授業を認めてもらうことで、自分たちの授業に対する自信にもつながった。授業を見合う会はお互いの良さを認め合い、高め会える機会となった。



3 本年度の成果と課題

<成果>

年度初めに、全職員で「ピア・サポートとは何か」についての研修を行い、共通理解を図った。児童に指導していく以前に、教職員が同じ方向性を持ってピア・サポートについて理解することで、例年以上に全職員・全児童がピア・サポートについての理解を深め、年間を通して意識を高めることができた。また、本年度は、小中連携での、「あいさつ運動」や「読み聞かせ」を通して、小中の9年間を見通したピア・サポート活動を行うことができた。これらをより活性化していくために、行事・生活・授業の中でピア・サポートを意識した取組を継続し、ピア・サポートの考え方や振りの中で、児童たちに浸透していくようにしていきたい。

<課題>

委員会の児童を中心に、本年度は「自分・相手」を意識したピア・サポートは多く見られたが、「みんな」を意識したピア・サポートが少ないことがあげられた。また、学年によってもピア・サポート活動に差が見られた。どの児童でも、どの学年においてもピア・サポート活動が特別なものではなく日常的なものとして児童の生活の土台になっていくためにも、年間を通して活動を行っていきたい。

4 来年度に向けて

学校全体に広まってきたピア・サポートの精神が子ども一人ひとりにより浸透し、その大切さを感じ、自然に実践していけるようにしていきたい。また、ピア・サポート委員会からあげられた課題からも、「みんな」を意識したピア・サポートが多く見られるような取組をしていきたいと考える。そのためにも、本年度までの活動内容を見直し、日常生活での意識を育てていく必要がある。それぞれの活動が何のために行われるのかを職員と子どもたちとで共通理解し、より良い子どもの姿が見られることを期待したい。